

農業用水を有効利用したきめ細かな水管理と、病虫害の適期防除に努めよう！

稲作指導情報第6号
平成11年6月24日
青森県農業生産対策推進本部

<作業のポイント>

水稻の生育は、平年よりやや進んでいる。6月に入ってから降水量が少なくなっているの
で、農業用水の有効利用に努めるとともに、次の作業のポイントを守り、食味・品質の優れた米を生産しよう。

水管理は、昼間止水・夜間かんがいの基本を守り、天候に応じたきめ細かな管理を行う。

農業用水は有効に利用し、掛け流しは行わない。

目標の茎数を確保したら、倒伏防止のためにも天気の良い日を選び、中干しを行う。

葉いもちやイネドロオイムシ、イネカラバエなど病虫害の発生に注意し、適期防除を行うとともに、放置された補植用苗は速やかに処分する。

幼穂形成期前は、葉色が淡くても、つなぎ肥は行わない。

1 仙台管区気象台の天候見通し

(1) 東北地方3か月予報(予報期間7月から9月まで)(6月21日発表)

3か月平均気温は、平年並か高い可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%である。

7月：日本海側は平年と同様に天気は周期的に変化する。太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

8月：平年に比べ晴れる日が多い。一時曇りや雨の日がある。

9月：天気は周期的に変化するが、平年に比べ晴れる日が多い。

(2) 東北地方1か月(6月20日から7月20日まで)(6月18日発表)

向こう1か月の気温は、高い可能性が大きく、その確率は50%である。

降水量は、平年並の可能性が大きく、その確率は50%である。

日照時間は、平年並の可能性が大きく、その確率は50%である。

2週目の予報(6月26日～7月2日)

気温 東北地方 高い

3週目から4週目の予報(7月3日～7月16日)

気温 東北地方 高い

2 生育状況

(1) 農業試験場作況田の生育状況(6月21日現在)

ア 「むつほまれ」の生育は、黒石(本場)、藤坂(支場)ともに、草丈、茎数、葉数のいずれも平年をやや上回っており、平年より2日程度進んでいる。

イ 「つがるロマン」の生育は、草丈、茎数、葉数のいずれも過去3か年の平均より上回っている。

ウ 「ゆめあかり」の生育は、「むつほまれ」に比べて草丈が短いものの、茎数と葉数は同程度である。

表 - 1 農業試験場作況田における生育状況（6月21日現在）

場所	品 種	草 丈（cm）			茎 数（本）			葉 数（枚）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
黒石	むつほまれ	37.4	35.1	38.4	16.3	14.8	13.8	7.7	7.3	7.1
	つがるロマン	35.7	(33.2)	34.4	13.2	(11.2)	12.7	8.2	(7.0)	7.2
	ゆめあかり	32.4	-	-	16.8	-	-	7.7	-	-
藤坂	むつほまれ	37.1	35.1	35.2	15.9	14.4	15.1	7.7	7.4	7.3
	かけはし	34.5	(29.1)	32.0	17.2	(13.4)	16.2	8.3	(7.1)	7.3
	ゆめあかり	34.5	-	-	17.7	-	-	8.0	-	-

注）苗の種類：中苗

移植日：黒石 5月20日、藤坂 5月14日

平年、前年は6月20日現在の数値

「つがるロマン」と「かけはし」の平均値は3か年平均値

（2）県内の生育状況（6月21日現在）

ア 梅雨入り以降、一時低温の日があったものの、好天に恵まれたため、6月21日現在の水稻の生育は、平年より2日程度進んでいる。

イ 地域的には、下北地域の「かけはし」の生育は平年より7日、中弘南地域の「つがるロマン」は平年より4日進んでいる。西地域の「むつほまれ」は移植時の強風等の影響により平年並になっている。

ウ また、全般的に草丈は平年よりやや長く、茎数は平年より多くなっている。

エ なお、「ゆめあかり」の生育は、津軽、県南地域ともに、草丈、茎数、葉数のいずれも前年より上回っている。

表 - 2 各地域の生育状況（6月21日現在） 農業改良普及センタ - 調べ

地域	主要品種の生育状況（cm、本、枚）					地域の生育概況（平年比）
	品 種	年 次	草 丈	茎 数	葉 数	
東青地域	む つ ほまれ	本 年	36.6	13.1	7.4	草丈：やや長い 茎数：多い 葉数：多い
		平 年	35.0	11.7	6.8	
		前 年	32.3	8.5	6.8	
		平年比	105	112	109	
西地域	む つ ほまれ	本 年	40.9	16.2	8.0	草丈：長い 茎数：多い 葉数：やや多い
		平 年	38.5	14.8	7.8	
		前 年	38.7	17.7	8.1	
		平年比	106	109	103	
中南地域	つがるロマン	本 年	36.1	14.0	8.0	草丈：長い 茎数：多い 葉数：多い
		平 年	33.7	10.6	7.2	
		前 年	34.2	13.5	7.6	
		平年比	107	132	111	
北五地域	む つ ほまれ	本 年	38.8	15.8	8.0	草丈：やや長い 茎数：多い 葉数：やや多い
		平 年	37.6	13.6	7.6	
		前 年	37.5	12.3	7.2	
		平年比	103	116	105	

上北地域	むつほまれ	本年 平年 前年 平年比	38.0 35.2 33.1 108	14.9 12.5 10.3 119	7.6 7.2 6.7 106	草丈：長い 茎数：多い 葉数：多い
下北地域	かけはし	本年 平年 前年 平年比	35.2 31.2 28.6 113	18.4 9.5 10.6 194	7.7 6.6 6.4 117	草丈：長い 茎数：多い 葉数：多い
三八地域	むつほまれ	本年 平年 前年 平年比	39.2 36.2 34.4 108	17.6 14.7 14.9 120	7.9 7.5 7.2 105	草丈：長い 茎数：多い 葉数：やや多い
ゆめあかり	(参考) 津軽地域	本年 前年 前年比	34.8 31.1 112	14.9 13.2 113	8.1 7.5 108	草丈：長い 茎数：多い 葉数：多い
	(参考) 県南地域	本年 前年 前年比	34.8 29.5 118	17.3 11.0 157	7.9 6.9 114	草丈：長い 茎数：多い 葉数：多い

注) 1 平年値は5～13か年の平均値(つがるロマンは3か年、かけはしは4か年)

2 品種の欄の内の数字は地点数

3 平年値及び前年値は6月20日現在の数値

3 これからの農作業と管理

(1) 水管理

ア 現在の貯水状況は、農業用ダムでは平年より少ない状況にあり、ため池では平年並であるが場所によって平年を下回るところが出始めている。

農業用水の有効利用に努め、特に、掛け流しは行わない。

表 - 3 主な農業用関連ダム等の貯水状況

(単位：%)

区 分	6月1日		6月10日		6月20日	
	貯水率	平年比	貯水率	平年比	貯水率	平年比
農業用ダム(5か所平均)	89	106	83	105	71	92
ため池(43か所平均)	74	113	75	121	61	101

イ 昼間止水・夜間かんがいを基本とし、温暖な場合は、3cm前後の浅水にして水温、地温の上昇を図り、低温の場合は、5～6cmのやや深水にして保温に努め、分げつを促進させる。

ウ 茎数が多く、株当たり茎数20本程度を確保した水田では、天候の良い日を選び、中干しを行う。

エ 特に、つがるロマンは耐倒伏性が劣るので、土壌窒素の過剰発現や下位節間伸長の抑制等のため積極的に中干しを行う。

オ 排水の劣るほ場では、中干しの効果を高めるため、5m間隔程度に溝切りを実施する。

カ 中干しは、田面に軽くひび割れが入る程度とし、幼穂形成期前には必ず終了する。実施中に低温が続くことが予想される場合は、直ちに中干しを中止して入水する。

キ 農業用水の有効利用と低温時に15～20cmの深水管理ができるように、日ごろから水田をよく見回り、畦畔を補強する。

(2) 肥培管理

ア 幼穂形成期前のつなぎ肥は、生育を遅らせるとともに、過繁茂となり倒伏や病害虫等の発生要因となるので、行わない。

イ 深層追肥は食味の低下を招くので行わない。

(3) 病害虫防除

ア いもち病

放置された補植用苗で6月16日に葉いもちが確認されていることから、放置苗は速やかに処分するとともに、ほ場をよく見回り、早期発見早期防除に努める。

特に、「ゆめあかり」などいもち病に比較的弱い品種を作付けしている水田や葉いもちが例年発生する水田では、6月下旬頃にオリゼメート粒剤やオリゼメートパックを水面施用するか、感染に好適な日如果出现したら、葉いもちの感染が見られなくても予防効果の高い薬剤を茎葉散布し予防防除する。

イ イネドロオイムシ

地域により発生が多く、幼虫の被害が見られている。

発生が多いほ場では、茎葉散布剤や水面施用剤で防除する。

ウ イネカラバエ

イネカラバエの産卵が6月17日に確認された。産卵最盛期はやや早くなり、平野部で6月末頃、山間部や海岸冷涼地帯で7月始め頃が防除時期になると予想されている。

イネカラバエによる食害は、減収だけでなく、著しい偏形粒、くびれ粒、茶米粒等が発生し、品質低下を招くので、適期に防除する。

(4) 雑草防除

ア 多年生雑草のミズガヤツリ、オモダカ、シズイなどが多く残っている水田では、ベントゾン及びその混合剤を散布する。

イ ヒエが多く残った場合、ヒエが4葉期までであれば、クリンチャーEWによる除草が可能であり、ヒエに加え多年生雑草も残草した場合は、クリンチャーバスME液剤が効果的である。

ウ 多年生雑草やヒエ等の発生が少ない場合は、拾い草をする。

(5) 調整水田の管理

調整水田に多年生雑草が多く残っている場合は、翌年の発生源にならないよう中・後期除草剤で除草する。

「つがるロマン7・8・9作戦」の展開
たんぱく質含有率(玄米)7.0%以下、整粒歩合80%以上、
1等米比率90%以上を確保し、「つがるロマン」の銘柄確立
をしよう！
7月の重点推進事項・・・中干しの徹底
・・・追肥の適正化

次回の稲作指導情報の発行予定は7月6日です。